

**【先進医療A】**  
**1年間(令和6年7月1日～令和7年6月30日)の実施件数が**  
**0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等**

先	－	5	－	2
7	.	1	2	4

告示 番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和5年7月～令和6年6月ま での実績 (実施可能であるすべての医療 機関の実績)
9	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイル ス検査	埼玉医科大学病院	対象となるインフルエンザ患者の流行が小規模にとどまり、本検査の適応となる入院患者、もしくは合併症を伴う患者が皆無であった。さらに、新型コロナウイルスの流行がまだ継続しており、新型コロナウイルスを含む多項目同時核酸検査(FilmArray)によるインフルエンザウイルスの同時検出が汎用されていることから、本検査のニーズは限定的であったと考える。	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、インフルエンザの流行について、いまま予測が困難な状況である。引き続き、いつでも診療ニーズに対応できるよう、体制維持に努めたと考えている。	0件
		浜松医療センター	スティックスバイオテックから診断試薬としてSGNP nCoV/Flu PCR 検出キットが発売されたため。	先進医療としての評価は不要と考えられ、SGNP nCoV/Flu PCR 検出キットへの移行が検討される。	
		医療法人松寿会 天保山内科	新型コロナの流行が継続し、またインフルエンザとの同時感染の疑いがあったときは、抗原検査でなんとか乗り切った。患者数が多く、時間的制約があったためインフルエンザだけをPCRで測定して確定させる時間的余裕がなかったため、院内での検査を行わなかった。	唾液を用いたインフルエンザAとBの体外診断薬はまだ国の認可を受けたものはないが、インフルエンザA型とB型および新型コロナを同時に検査する認可を受けたキットが存在するので、新型コロナ禍が収まるまではこの認可キットを用いて検査を行う予定である。今後新型コロナの検査が必要なく、インフルエンザを唾液を検体として検査する必要が生じたときは、この検査法を使用する予定である。	
		鹿児島大学病院	インフルエンザの流行はあったが、COVID-19の鑑別を要さないインフルエンザ疑い入院患者がなく検査の実施事例がなかったため	今シーズン以降、流行に応じて実施する予定	

**【先進医療B】**  
**1年間(令和6年7月1日～令和7年6月30日)の実施件数が**  
**0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等**

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和5年7月～令和6年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
2	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	本試験は2020年5月に症例登録期間が終了しているため。	該当しない。	0件
5	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	国立大学法人富山大学医学 部附属病院	本報告期間において、当院の「保険外併用療養費の対象患者」は治 療終了などの理由によりいない。	当院では保険外併用療養費の対象患者の治療をすべて終了し、現 在追跡期間中である。	7件
7	ゲムシタビン静脈内投与、ナブーパクリタキセル静脈内投与及 びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵 臓がん	東京大学医学部附属病院	すでに最終登録症例の後観察期間が完了していたため	総括報告書を提出予定	1件
17	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下 肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するも のであって、維持透析療養を行っているものに限る。)	湘南鎌倉総合病院	2020年8月にLDLアファレシス治療を適用として直接灌流型吸着器(レ オカーナ)が承認された。この対象患者の多くは重症下肢虚血の細胞 移植治療(先進医療B)と重なる。直接灌流型吸着器による治療の有 効性については、試験等で得られた良好なデータにより高い期待が寄 せられている。さらに、直接灌流型吸着器による治療は保険が適用で きることから、主に患者の経済的負担の点で医師、患者とも選択しや すい。こうした理由により現在は、直接灌流型吸着器による治療が優 先的に選択されている。	当該先進医療技術は、直接灌流型吸着器による治療が奏効しな かった患者に対しても適用となる。現時点で直接灌流型吸着器によ る治療の効果判定をしている段階の患者が複数名いるため、今後 症例は増えることが予想される。 当該先進医療技術について、第175回先進医療技術審査部会にて 研究期間の延長について承認を得た。	1件
20	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活 動による膀胱機能障害(5歳以上十八歳未満の患者に係るも のに限る。)	地方独立行政法人東京都立 病院機構 東京都立小児総 合医療センター	症例登録期間終了となったため	現在、総括報告書作成中である。	0件

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和5年7月～令和6年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
26	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	登録期間が終了した為該当なし		0件
29	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法	国立がん研究センター中央病院	症例登録が終了したため		1件
32	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	1例の登録を行ったが、全身精査の結果、治療に適さないと判断した。その他に本試験に適する症例がみつからなかった。	協力機関に登録を促すとともに、様々な医療機関に紹介を呼びかけていく。	0件
54	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 包括的高度慢性下肢虚血(閉塞性動脈硬化症を伴うものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	本研究の対象患者と類似する患者が対象の治療を実施中であり、この影響を強く受けたことが主な原因と考えられた。また、対象疾患は気温の低い季節に症状等が増悪する傾向にあるが、2024年は記録的な暖冬であったことも影響したと考えられた。	当該治療の症例登録期間の終期は2026年3月であり、症例登録遅延の主な原因は徐々に取り除かれると考える。 症例登録促進策としては、症例スクリーニングや関連病院への患者紹介依頼を強化している。特に、学会等の場を活用して対象患者を多く抱える医療機関や専門医との接触機会を増やし、対象症例の掘り起こしを行い、症例集積に繋げていく。	-
57	着床前胚異数性検査2 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。))が染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)	徳島大学病院	施設内での最終承認など、必要な手続きと準備体制の最終確認に時間を要したため実施に至っていない。	準備が整ったため、今後速やかに開始する予定。	-

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和5年7月～令和6年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
58	ギルテリチニブ経口投与療法	岡山大学病院	本研究の告示はR7.5.1であり、今回の報告期間内では実施期間が2か月と短いため。	今後も継続して関連施設や関連学会に積極的に周知を行い、該当患者の集積を図る。	—

※「—」は昨年度未実施の医療技術